

菱の実

菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）会報 第27号



発行日 2025年7月1日

発行 菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL/FAX 0952-23-7131
E-mail ryoujitsukai@sudream.sakura.ne.jp
ホームページ https://www.sudream.org/ryoujitsukai/

編集代表 小玉純士

目次

○巻頭言	菱実会発足25周年記念事業を終えて 島 公二武	1
○【トピックス1】	佐賀大学に自転車用電動空気入れを寄贈 高津 汰耀	3
○理工学部長室の応接セットを寄贈		3
○各種表彰について		
・第4回理工学部同窓会長賞の表彰式		4
・第5回理工学部同窓会長賞の表彰者（表彰式は9月）		4
・第10回佐賀大学同窓会長賞の授与について		4
・第21回理工学部長賞の表彰		5
・2024年度菱実会・理工学部広報賞		5
○2024(令和6)年度佐賀大学学位記授与式について		6
○2025(令和7)年度佐賀大学入学式について		6
○理工学部教員一覧（関係センター含む）		7
○【トピックス2】		
佐賀大学に新たな学びのフィールドが誕生します 園田 泰正		7
○理工学部（理工学研究科）の特徴ある研究の事例紹介（第6回）		
・LLM活用を前提としたソフトウェア教育の変革 掛下 哲郎		8
・微細藻類からの有用生体分子の回収 川喜田 英孝		8
・素粒子物理学の研究 青木 一		9
・メンバで考えた近未来課題を計算知能で解決 泉 清高		9
・電気機器・電磁装置のシミュレーション 村松 和弘		10
・建築環境工学分野の研究で日本学術振興会特別研究員に採用 小島 昌一		10
○2024年度 理工学部と菱実会との意見交換会 山中 輝樹		11
○【トピックス3】		
卒業証明書取得のオンライン申請スタート 園田 泰正		11

○私たちががんばっています（vol.11）		
・A.Iと私：研究から社会実装へ	新名 玄	12
・A Journey of Growth: From Saga University to NICT	Htet Wai Htun	12
・大町地域おこし協力隊（防災担当）にチャレンジ	田中 稲穂	13
・STEPsリーダーとしての国際交流と地域貢献	出雲 正浩	13
○菱実会役員の自己紹介（vol.7）		
・菱実会の発展を願う 吉村 真	14	
・知的好奇心と行動力で、世界へ挑戦 福嶋 通明	14	
○菱実会総会・同窓生ネットワーク活動報告会		15
○第13期菱実会役員（2024年4月～2026年3月）		15
○2024年度理工学部キャリアデザインセミナー		16
○2024年度「建設プロジェクト演習」実施報告 三島 悠一郎		16
○支部会・地区会の報告		
・熊本支部会 山口 智啓	17	
・神埼地区会 牧瀬 稔子	17	
・佐大会懇親会 山口 智啓	18	
・大分県支部会（豊後はがくれの会） 穂屋下 茂	18	
○2024年度佐賀大学ホームカミングデー 田中 稲穂	19	
○【トピックス4】		
・ネーミングライツパートナー募集 企画管理課	19	
○菱実会の動き（2024.4-2025.3）		20
○お知らせ		
・「菱実会賞」申請の勧め	20	
・菱実会発足25周年記念誌の見本と申し込み	20	
*お問い合わせ先：菱実会事務局		

菱実会発足25周年記念事業を終えて

菱実会会長 島 公二武



（機械・S46入）

菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）は2024（令和6）年8月、楠葉同窓会（旧文理学部、経済学部、理工学部の3学部で組織）から分離独立して25周年を迎えました。そこで同窓会活動の輪を広げるために次のような4つの記念事業を行いました。

- (1) 菱実会発足25周年記念式典・祝賀会
- (2) 菱実会発足25周年記念誌の発行
- (3) 佐賀大学・理工学部へ記念品の寄贈
- (4) 佐賀大学及び佐賀県内のドローンによる空撮

一つ目の事業として、2024年9月7日（土）に菱実会定例総会に併せて、発足25周年記念式典・祝賀会を開催しました。定例総会では、佐賀大学同窓会からの離脱についての説明を行い、その後の学生企画の同窓生ネットワーク活動報告会では起業している大学院生らにその活動状況を発表していただきました。また、12名の卒業生に2023年度理工学部同窓会長賞を授与しました。このように菱実会では入学時から正会員で、在学中から役員会や総会にも活動していて今回の総会も若々しさを感じられるものでした。続いての記念式典では佐藤和也学部長をはじめ豊田一彦前学部長、中島晃元学部長及び先生方、同窓生や学生など多くの人に参加していただきました。記念講演は「佐賀県のIT/AI企業の今後の生き延び方」と題してサガン鳥栖の胸ネームスポンサー木村情報技術の木村隆夫社長にお願い致しました。その後の祝賀会も盛況の内に終えました。

二つ目の事業として25周年記念誌の発行を行いました。タイトルは『菱実会発足25周年記念誌～歩みと想いⅢ』です。菱実会は理工学部と深く関わっています。理工学部創立30周年と50周年にも同窓会が率先して記念誌の発行に携わりました。その時のサブタイトルが「歩みと想い」「歩みと想いⅡ」です。理工学部と共に歩み続けた歴史とその想いを記録として後に続く後輩達に残したもので、従って菱実会としては始めての記念誌ではありますが「歩みと想いⅢ」となったわけです。この記念誌の最初のページには理工学部大学院生起業家のドローンによる空撮写真「写真で綴る佐賀大学キャンパスとその周辺の変遷」で綴られています。このカラー刷り写真からは理工学部の発展が如実に伝わってきます。続いて第一部は挨拶と祝辞など、第二部は隨筆集、第三部は菱実会の活動、第四部は菱実会会報「菱の実」と佐賀大学同窓会会報「楠の葉」、第五部は会員名簿、第六部は編集後記など、全部で650ページに及んでいます。寄稿していただきました学部長をはじめ先生方と先輩諸氏と同窓生の皆様、更に発刊にご尽力頂いた編集委員の皆様にお礼申し上げます。特に病気を押し切って献身的に推敲していただいた牧瀬稔子編集委員には感謝に絶えません。また、この記念誌が末永く同窓生の思い出に残ることを願って止みません。

三つ目の事業として理工学部への記念品寄贈を行いました。ご要望により理工学部長室への応接セットと肘付き会議用椅子16脚で、末永く先生方のお役に立つことを願っています。また、自転車用電動空気入れを佐賀大学正門美術館の守衛室の西側に設置しました。本学の自転車利用者の利便性向上に役立てば幸いです。

四つ目の事業は、ドローンにより最近の大学キャンパスや大学近郊の様子を写真と動画に撮り、整理して大学の今の姿を残すことを試みました。これまでキャンパス全体を空撮することは簡単ではありませんでしたが、最新のカメラ付きドローンを使うと空撮が割と簡単にできますので、佐賀大学発ベンチャー企業に依頼して本庄キャンパスを空撮してまとめてみました。その動画は菱実会Webサイトで公開しておりますので是非ご覧下さい。

以上のように記念誌の発行も完了し立派に25周年記念事業を終えることができました。これも理工学部30周年記念誌の発行に取り組んできたことが始まりです。30年前の学部長や当時は楠葉同窓会で任理事や会員だった先輩方の理工学部同窓会設立への「歩みや想い」から始まっているのです。歴代の会長や役員の方々、とくに当時編集委員会の事務局長であった菱実会前会長穂屋下先生が菱実会の事務局長を務め、実行委員の皆様の協力があって25周年記念事業に取り組んでいただき、そして学部長をはじめ先生方と同窓生の皆様がご尽力頂いたからこそ立派に記念事業を終えることができました。心から皆様にお礼申し上げます。

* 4つの記念事業の詳細な記録（写真・動画等）は菱実会Webサイトの「菱実会発足25周年記念事業の実施報告」をご覧下さい。

<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/information/202501272120/>



出席者全員で記念写真



山口実行委員長の挨拶



中島先生のご発声で乾杯



和やかな懇親会の一コマ



学生歌「楠の葉の」



トピックス1

佐賀大学に自転車用電動空気入れを寄贈

2025年4月、佐賀大学本庄キャンパスに自転車用電動空気入れ（エアステーション）が新たに設置されました。設置場所は、美術館西側、守衛室横のスペースです。24時間使用可能で、誰でも自由に利用でき、使用料も無料です。

この空気入れは、佐賀大学理工学部同窓会「菱実会」から大学への寄附という形で実現したものです。きっかけは、佐賀大学は駅や周辺地域から自転車通学をする学生が非常に多い一方で、空気入れの環境が整っていないという理工学部生からの声が寄せられたことでした。

これまで守衛室内には手動式の空気入れが設置されていましたが、その存在は学生の間であまり知られておらず、結果として多くの学生が大学周辺の店舗に設置されているエアステーションまで足を運び、空気を入れるという状況が続いていました。

そうした背景を踏まえ、菱実会では創立25周年記念事業の一環として、大学へのエアステーション寄贈を提案し、約半年間にわたって大学との協議・調整を重ね、学内の関係部局の理解と協力を得ながら、正式に設置が実現しました。

設置後には、大学からも周知が行われ、「2025年4月、佐賀大学美術館に自転車用電動空気入れを設置しました。これは、佐賀大学理工学部同窓会（菱実会）からご寄附いただいたものです。どなたでも利用可能で、使用料は無料、24時間利用できます。設置場所は、美術館西側、守衛室の横になります。皆さん、是非利用してください。」との案内がLiveCampusを通じて全学的に配信されました。

現在では、授業の合間等の時間帯に多くの学生が空気を入れる姿が見られるようになっています。学生の利便性を高め、学びの場としての大学環境をより良くするための取り組みとして、今後も長く活用されることを願っています。

（文責：高津 汎耀）



理工学部長室の応接セットを寄贈

菱実会発足25周年記念事業として、育んでいただいた理工学部に何か形に残る記念品を差し上げたいと申し込んだところ、理工学部長から、理工学部長室の応接セット等でどうだろうかとの打診がありました。菱実会役員会に諮ったところ異議はありませんでしたので、応接セット一式と会議椅子16脚を寄贈することになりました。2024年11月13日の理工学部と菱実会との意見交換会の折、菱実会会长から理工学部長に目録を贈呈しました。2025年1月

27日に、理工学部長室において、菱実会発足25周年記念事業の一つとして行った理工学部への記念品寄贈に対してお礼の感謝状をいただきました。理工学部長室の応接セットはかなり古くなってきていたので、非常に有難いとのことでした。

写真は、感謝状、その受領の様子、理工学部長室に備え付けられた応接セット一式（オカムラ：8301BC WG70、8321YE PF72）、及び肘付き会議椅子16脚（コンテッサチェア、CC81BR FPG1）です。理工学部長室で末長く役立つことを祈っております。



感謝状



感謝状の受領



応接セット一式



肘付き会議椅子16脚

第4回理工学部同窓会長賞の表彰式

2024年9月7日、佐嘉神社記念館で開催された菱実会発足25周年式典において、理工学部同窓会長賞の表彰式が行われました。理工学部同窓会長賞は、成績（GPA：Grade Point Average）の他、学術研究活動、課外活動、社会活動等において総合的に優秀であると認められた学生（4年生）を表彰する制度です。第4回目となる2023年度からは成績のみに偏らない幅広い推薦方法として、4年間のGPA、学術研究活動、課外活動、社会活動、同窓会とのコミュニケーションなどのポイント例を示していただきました。2023年度は理工学部長に各部門から13名の候補者を推薦していただきました。残念ながら1名は辞退されました。

受賞者の氏名とクラス名（コース名・入学年度）は次の通りです（敬称略）。受賞おめでとうございます。今後の活躍をお祈りいたします。

古賀 創臣（知能・R2入）	岸本 蒼唯（知能・R2入）	石津 七海（知能・R2入）
石川 聖真（生化・R2入）	濱崎 巧海（生化・R2入）	大嶋 悠人（物理・R2入）
中本 万智（物理・R2入）	田中 翔大（機械・R2入）	峰 遼大（メカ・R2入）
樋崎 蓮（電気・R2入）	長野いづみ（都市・R2入）	齋藤沙耶花（建築・R2入）



第5回理工学部同窓会長賞の表彰者（表彰式は9月）

2024（令和6）年度は理工学部長に各コースから12名の候補者を推薦していただきました。受賞者の氏名とクラス名（コース名・入学年度）は次の通りです（敬称略）。おめでとうございます。

馬場 康太（数理・R3入）	吉岡 秀悟（知能・R3入）	林 小晴（情報・R3入）
田中 希（生化・R3入）	青山 晃大（応化・R3入）	眞崎 葵（物理・R3入）
佐藤 陽向（機械・R3入）	島添 博聖（メカ・R3入）	鶴田 晃士（電気・R3入）
山口 立（電子・R3入）	福島 美晴（都市・R3入）	田代美都香（建築・R3入）

なお、理工学部同窓会長賞の表彰式は、菱実会総会・懇親会に併せて開催します。2025年度の菱実会総会・懇親会は2025年9月6日に開催予定です。

第10回佐賀大学同窓会長賞の授与について

佐賀大学同窓会では、社会活動、教育、研究等で顕著な社会貢献があったと認められる個人又は団体に「佐賀大学同窓会長賞」を授与しています。佐賀大学同窓会長賞授与は、2025（令和7）年3月25日の佐賀大学学位記授与式の際に執り行われました。2024年度より菱実会は佐賀大学同窓会を離脱しましたので、理工学部の学生は対象外になることで合意していましたが、佐賀大学長の意向で、従来通り理工学部の学生も対象になりました。2024年度は5つの学部から推薦がありました。

理工学部からは出雲 正浩氏が授与されました。4年間の総合GPAが高く、STEPs（理工学部学生国際交流活動組織）の第14代リーダーとして海外の大学で研修成果を英語で紹介したり、佐賀大学と海外の大学との交流会でリーダーを務めたり、さらに唐津市の株式会社コンロッドのプロジェクトでデザイン担当として参画し地域貢献活動に尽力したことなど多彩な活動が評価されました。

第21回理工学部長賞の表彰

2025（令和7）年4月2日（水）16時から、理工学部6号館2階の多目的セミナー室において、理工学部長賞の表彰式が開催されました。2024年度において、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた25名の学生、各学年各コース1名ずつが表彰されました（データサイエンスコースは2023年度に設置されました）。表彰式において、菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）からは副賞として図書カードを贈りました。

表彰のあと理工学部長挨拶、菱実会会长挨拶と続き、出席者全員で記念撮影を行った後、表彰された学生との懇談会がありました。

第21回理工学部長賞受賞者（敬称略）

コース名	新4年（22）	新3年（23）
数理サイエンスコース	岸本 康平	工藤 天智
データサイエンスコース	—	日下部 渉
知能情報システム工学コース	山根 雅也	石松 優弥
情報ネットワーク工学コース	木下 広大	馬場 健太
生命化学コース	和田 珠來	武宮 未侑
応用化学コース	石井 こゆき	弘中 蓮
物理学コース	仲尾 駿	山口 祐
機械エネルギー工学コース	原田 健伸	松岡 宗汰
メカニカルデザインコース	中馬 健斗	松尾 奏
電気エネルギー工学コース	宮原 慧真	松尾 弦樹
電子デバイス工学コース	西野 温	八尋 有一
都市基盤工学コース	植松 笑未	松尾 悠
建築環境デザインコース	池田 悠真	小嶋 健司



2024年度菱実会・理工学部広報賞

2024年度菱実会・理工学部広報賞（第8回）の対象学生は84名で、菱実会より記念品（クオカード）が贈呈されました。記事名等は次の通りです（敬称略）。

記事日付	記事	学生氏名	部門（指導教員）
2024/4/5	映像情報メディア学会放送技術研究会で優秀賞を受賞	川崎 龍青・他2名	電気電子(田中高行先生)
2024/4/5	IEEE 福岡支部学生研究奨励賞を受賞	川崎 龍青	電気電子(田中高行先生)
2024/5/9	日本音響学会九州支部主催第17回学生のための研究発表会で学生表彰を受賞	前田 篤史	機械（カーン先生）
2024/5/10	教育システム情報学会主催 2023年度「学生研究発表会」で優秀発表賞を受賞	岸本 蒼唯	数理・情報(中山先生)
2024/5/28	令和6年度嘉瀬川・六角川・松浦川総合水防演習に参加	櫻木 利宗・他9名	都市（大串先生）
2024/5/31	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施	古賀 あみ・他2名	化学（長田先生）
2024/7/4	第61回化学関連支部合同九州大会において優秀ポスター賞を受賞	嘉村 知紀	化学（森貞先生）
2024/7/9	The M&BE11においてM&BE Student Poster Awardを受賞	神代 健人	化学（坂口先生）
2024/7/9	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(2)	岡崎 慎太郎・他2名	化学（長田先生）
2024/7/18	高分子・繊維部門ポスター賞と物理化学部門若手研究者奨励賞を受賞	原口 楓多・他1名	化学（成田先生）
2024/7/24	第34回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会にてポスター賞を受賞	櫻井 鴻志郎	化学（川喜田先生）
2024/7/30	合同会社sunappが佐賀大学発ベンチャー第7号に認定	高津 汰耀	数理・情報(中山先生)
2024/8/2	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(3)	坂口 美月・他2名	化学（長田先生）
2024/8/6	2024年度九州分析化学奨励賞を受賞	Citra Dewi Rakhamania	化学（富永先生）
2024/9/19	ハッカソンイベント「ガバインソン2024夏」で最優秀賞を受賞	岸本 蒼唯・他4名	数理・情報(中山先生)
2024/10/1	Wiーン工科大学主催の国際学生セミナーに参加	松田 愛也・他11名	都市(三島伸雄先生)
2024/10/7	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(4)	坂口 美月・他2名	化学（長田先生）
2024/10/11	第24回アコースティック・エミッション総合コンファレンスを開催	Nazmush Sakib・他8名	機械（カーン先生）
2024/10/15	日本応用数理学会2024年度年会にて優秀ポスター賞を受賞	川崎 真緒	数理・情報(木村先生)
2024/11/1	電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会で優秀ポスター発表賞を受賞	南村 楓大	電気電子(田中高行先生)
2024/11/1	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(5)	古賀 あみ・他2名	化学（長田先生）
2024/11/14	第24回アコースティック・エミッション総合コンファレンスで新進賞を受賞	前田 篤史	機械（カーン先生）
2024/11/14	「計測展2024 OSAKA」で優秀賞を受賞	柴田 大知・他2名	機械(佐藤和也先生)
2024/11/18	地盤災害と建設工学に関する国際会議において優秀講演賞を受賞	三瀬 公博	都市工学(日野先生)
2024/11/18	第59回地盤工学研究発表会において優秀論文発表者賞を受賞	中尾 亮太・他1名	都市（日野先生）
2024/12/3	第35回太陽光発電国際会議（PVSEC-35）にてPosterAwardを受賞	末次 祐太	電気電子(田中徹先生)
2024/12/3	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(6)	長谷 みゅう・他2名	化学（長田先生）
2024/12/16	The 35th ISChE(2024)にて口頭発表賞を受賞	古野 祥希	化学(川喜田先生)
2025/2/18	鹿児島地方講演会にてベストプレゼンテーション賞と企業賞を受賞	岩隈 涼太	機械(長谷川先生)
2025/2/18	優秀口頭発表賞、生命化学コースが優秀ポスター受賞	神代 健人・他1名	化学（坂口先生）
2025/2/28	JST「さくらサイエンスプログラム」共同研究活動を実施	Prapti Ira Kumalasari・他1名	化学（富永先生）
2025/3/13	応用科学学会主催2024年演算増幅器設計コンテストで受賞	待鳥 維吹	電気電子(田中高行先生)
2025/3/13	映像情報メディア学会放送技術研究会で最優秀賞および優秀賞を受賞	荒木 史龍・他1名	電気電子(田中高行先生)

2024（令和6）年度佐賀大学学位記授与式について

2025（令和7）年3月25日（火）、佐賀市文化会館大ホールに於いて、佐賀大学学位記授与式が開催されました。卒業、修了された皆様方の今後のご活躍を願っております。学部卒業生数及び研究科修了生数の詳細は次の通りです。

理工学部 卒業	
数理科学科	1名
物理科学科	0名
知能情報システム学科	0名
機能物質化学科	2名
機械システム工学科	2名
電気電子工学科	1名
都市工学科	2名
理工学科	452名
計	460名

研究科	
学校教育学研究科（修士課程）	16名
地域デザイン研究科（修士課程）	15名
医学系研究科（博士課程）	8名
先進健康科学研究科	46名
理工研究科（博士前期課程）	173名
理工学研究科（博士後期課程）	5名
工学系研究科（博士後期課程）	0名
農学研究科（修士課程）	31名
研究科計	294名

学 部	
教育学部	123名
芸術地域デザイン学部	108名
経済学部	259名
医学部	162名
理工学部	460名
農学部	159名
学部計	1,271名



2025（令和7）年度佐賀大学入学式について

2025（令和7）年度の佐賀大学の入学式は、2025年4月2日（水）、SAGAアリーナに於いて開催されました。兒玉浩明佐賀大学長から、学部学生1,379名、大学院学生343名、合わせて1,724名の学生の入学許可宣言がありました。入学者数の詳細は次の通りでした。

学部（編入学含む）	
教育学部	130名
芸術地域デザイン学部	126名
経済学部	275名
医学部	164名
理工学部	527名
農学部	157名
学部計	1,379名

研究科（博士前期課程）	
学校教育学研究科	20名
地域デザイン研究科	14名
先進健康科学研究科	53名
理工学研究科博士前期課程	186名
農学研究科	38名
研究科計	311名

研究科（博士課程・博士後期課程）	
医学系研究科博士課程	20名
理工学研究科博士後期課程	12名
研究科計	32名



理工学部(理研究科)の特徴ある研究の事例紹介(第6回)

数理・情報部門(旧数理科学科・旧知能情報システム学科)

■ LLM活用を前提としたソフトウェア教育の変革

2020年のコロナ禍を通じて、大学ではオンライン授業が急速に普及しました。これにより、時間や場所の制約から解放された教育が可能になりました。学習環境が大きく変わりました。2022年12月にはChatGPTが登場し、LLM(大規模言語モデル)の本格的な活用が始まりました。LLMは汎用技術として、文書作成や思考整理、プログラミングなど多くのタスクに応用可能です。その性能は急速に向上しており、東京大学の入試問題を解き、合格ラインを超えるレベルに達しています。

このような背景を受け、私の研究室ではLLMの活用を前提としたプログラミング教育やソフトウェア工学教育の変革をテーマに、2件の科研費(課題番号24K06418、24K06431)を獲得して研究を進めています。

本研究では、様々なレベルの学習者に対応して、以下に示す教育コンテンツを開発しています。

初心者向け: Pythonを使った構造化プログラミングの基礎を学び、データ構造とアルゴリズムの基本を理解します。さらに、Google GeminiやGitHub Copilotを利用して、コード補完やエラーチェックを行い、実際のプログラミング課題に対応します。

中級者向け: Javaを使ったオブジェクト指向プログラミングを通じて、テスト駆動開発(TDD)やアジャイル開発の実践的な方法を学びます。ここでは、LLMを利用したコードレビューやバグ修正支援も行い、より効率的な開発手法を提供します。

上級者向け: ソフトウェア設計や要求工学、品質保証について深く掘り下げます。さらに、ITイノベーションに関する最新のトピックを取り上げ、LLMを使った問題解決方法やアイデア生成を学びます。

これらの教育コンテンツは学習支援システムMoodleで提供され、オンデマンドビデオを活用して学べるほか、AIチャットボットを活用して受講者の質問にも随時対応できます。

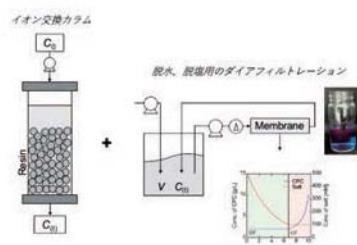
佐賀県では情報系の大学の新設も進みつつあり、小中高校のプログラミング教育やDX人材育成の推進とともに併せて教員不足が課題です。この問題に対して、我々のソフトウェア教育システムが教員の負担を軽減し、教育の質向上に貢献することを期待しています。

(文責:掛下 哲郎)

化学部門(旧機能物質化学科)

■ 微細藻類からの有用生体分子の回収

微細藻類のブームは過去数回存在し、現在は第三期のブームになっています。佐賀大学では、出村幹英先生が筑波大学より着任され、理工学部、農学部、医学部での横断的な微細藻類に関する研究が進んできました。微細藻類は二酸化炭素からオイルやタンパク質などの有用物質を生産するということで注目されてきました。オイルは飛行機用の燃料として、有用タンパク質は医療や分析の分野での応用が期待されています。微細藻類自体が食品として食されつつあります。



微細藻類中に存在するフィコビリタンパク質は着色をもつタンパク質であり食品素材として注目されています。タンパク質の純度を向上させると、その価値が増加させるために様々な分離、濃縮方法に関する工学的な研究が行われています。微細藻類を凍結し解凍すると微細藻類の細胞内部から様々な生体分子が浸出します。今までに、塩析(高濃度の塩を加えて沈殿させる方法)、膜分離(生体分子のサイズの違いを利用する方法)、クロマトグラフィー法(カラム内の生体分子の移動度の違いを利用する方法)などの方法が研究されています。これらの方法は単一の分離手法であるために、ユニットと名付けます。

单一の分離方法であるユニットを用いると完全に高い純度でフィコビリタンパク質を分離することができるかもしれません。中途半端な分離性能になる場合、このユニットを組み合わせてプロセスを構築する必要があります。世の中で機能している仕組みはほとんどがプロセスになっています。タンパク質の分離の場合、ユニットについて丁寧に実験を行い、数理モデルを作成します。そしてユニットを結合してプロセスを構築し、数理モデルで分離への効果を調べます。最後に良い条件を取り出して、プロセスを実験的に評価し分離性能を調べます。こうして高いフィコビリタンパク質の分離能を実現するプロセスを提案することができました。

(文責:川喜田 英孝)

物理学部門（旧物理科学科）

■ 素粒子物理学の研究

佐賀大学素粒子論研究室では、今年4月に菊地真吏子氏が着任し、青木一と教員2名で教育・研究活動を行っています。

素粒子物理学は、物質は何から構成されているか、それらはどのような相互作用をしているか、時空間とはなにか、という基本的な問題を探求する学問です。現代の標準的な考えでは、物質はクォークとレプトンから構成され、それらは電磁気相互作用、弱い相互作用、強い相互作用、重力相互作用という4つの相互作用をしています。その理論は標準模型と呼ばれており、膨大な実験結果と精度よく一致しています。全ての自然現象は突き詰めるとこれで説明できるのです。また、時空間は、一般相対性理論によると、物質により歪み、その歪みにより重力の効果が記述されます。

このように標準模型は大変完成度の高い理論ですが、まだ不満足な点があります。まず、究極の最終理論というには、理論の任意性が大きすぎます。なぜ、時空間は(1+3)次元なのか、3世代のクォークとレプトンが存在するのか、4つの相互作用が存在するのか。このような疑問に答えられません。理論に含まれる任意パラメタの数も少なくありません。第2に、重力の量子論が完成していません。電弱強の3つの相互作用は場の量子論による記述に成功していますが、重力はできていません。時空や重力の微視的な理解は完成からほど遠い状況です。第3に、実験や観測との照合を行い、標準模型の修正や拡張に関する検討を進める必要があります。

このような問題を解決する有望な理論として弦理論があります。弦理論では、最も基本的な要素は粒子ではなく弦であるとします。弦の様々な振動モードが様々な粒子を表し、重力子も自然に現れます。理論の整合性から理論の形も決まり、時空間の次元も決まります。しかし、広がった時空間と小さく丸まった余剰次元空間を考えると、弦理論の任意性は膨大になり、より基本的な定式化が必要になります。行列模型による定式化が有望で、その作用は

$$S = \text{Tr}([A_\mu, A_\nu][A^\mu, A^\nu] + \bar{\psi}\Gamma^\mu[A_\mu, \psi])$$

と、とても単純で美しい形をしています。ここで、 A_μ と ψ は行列で、そこから時空間、物質、相互作用が全て出現します。私は、行列模型と弦理論の対応や、その真空構造の解析に関する研究を行っています。

(文責：青木 一)

機械工学部門（旧機械システム工学科）

■ メンバで考えた近未来課題を計算知能で解決

計算知能（Computational Intelligence）とは、ニューラルネットワーク、ファジィシステム、進化的計算を中心に現代のAIにおいて中核となる計算パラダイムの理論、設計、応用、開発と言え、現在進行形で様々な新しい提案がなされ発展し続けています。2004年にIEEEにおいてComputational Intelligence Society^[1]という名称となり、以降広く「計算知能」という言葉が用いられるようになりましたと感じています。計測自動制御学会システム・情報部門にはコンピューターショナル・インテリジェンス部会^[2]があります。

研究グループでは、メンバで「近未来の課題」を考え、それら課題を卒業研究、修士課程の特別研究にて解決に取り組みます。一例として、「非接触給電システムがある環境での移動ロボットの行動選択に関する研究」を紹介します。EV移動ロボットが非接触給電できる作業空間が近い将来実現すると考え、あらゆるコスト面から作業空間が給電可能な領域と不可能な領域が存在すると想定しました。そこで、移動ロボットが充電する経路と運搬する経路の切り替え時間を作業効率とバッテリ状態から計算知能の進化的計算にて決定する方法を提案し、シミュレーション（図）により検証しました。相反する評価を同時に検討しているので解は複数存在しますが、解の選択はヒトができるように構築しています。いわゆる人間中心AIを目指した提案ともなっています。

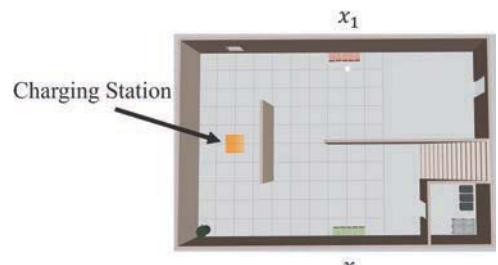
今後もこれまでとおりメンバ全員で課題とその解決を考え続けます。

(文責：泉 清高)

【参考文献・資料】

[1] IEEE Computational Intelligence Society, <https://cis.ieee.org/> (2025.5.30参照)

[2] システム・情報部門 コンピューターショナル・インテリジェンス部会, https://www.sice.or.jp/ci/ci_index.html (2025.5.30 参照)



電気電子工学部門（旧電気電子工学科）

■ 電気機器・電磁装置のシミュレーション

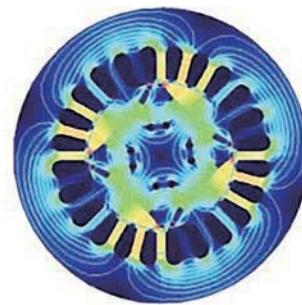
高性能な電気機器や電磁装置を開発・設計するために、これまでの試行錯誤的な試作実験に代わって、コンピュータを用いたシミュレーションが用いられています。しかし、新製品の開発においては、シミュレーション技術が確立されておらず、有効なシミュレーションができないという問題に直面することが多々あります。当研究室では、そのような「シミュレーションできない現象をシミュレーションする」ため、高度なシミュレーション技術の開発を行っています。さらに、開発したシミュレーション技術を用いて、企業の各種高性能機器・装置の開発設計支援も行っています。

例えば、近年では、電気機器に用いられる薄い鋼板を積層した積層鉄芯や粒子構造の圧粉磁芯を効率よくシミュレーションするための「鉄芯の均質化モデリング技術」、次世代パワーエレクトロニクス用磁気的受動部品の開発に必要な「巻線の寄生容量を考慮した高周波電磁界解析技術」、機器・装置の磁気的特性のみでなく、温度上昇、機械的強度、騒音なども評価するための「連成解析技術」など、様々な高度なシミュレーション技術の開発を行っています。

また、開発したシミュレーション技術を用いた企業の新製品の開発支援として、これまで「電力貯蔵装置用磁気軸受の低損失化」、「インバーター用リアクトルの低損失・低騒音化」、「MRI用開放型シールドルーム」などを実施し、現在は「100万ボルト超超高電圧送電用電力制御機器」、「アモルファス磁芯を用いたEV用低損失モータ」などの新技術の開発を支援しています。

以上、当研究室は、代表者の村松が2017年より国際電磁界数値解析学会の理事を務めるなど、本分野で世界を牽引しており、今後もシミュレーション技術により社会に貢献できるよう、精力的に研究を進めていきたいと考えています。

(文責：村松 和弘)



都市工学部門（旧都市工学科）

■ 建築環境工学分野の研究で日本学術振興会特別研究員に採用

このたび、佐賀大学大学院理工学研究科博士後期課程2年の安藤航君（小島昌一研究室所属）が、令和7年度日本学術振興会特別研究員（DC2）に採用されました。安藤君は本学理工学部都市工学科の卒業生で、建築環境および建築設備関連分野を専門として研究に励んでおります。

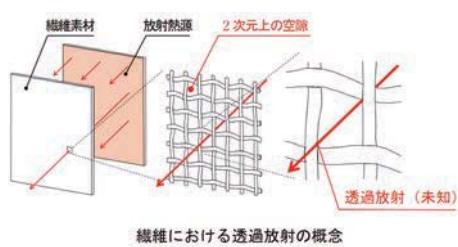
安藤君が特別研究員として取り組む研究課題は「壁放射冷暖房時の布の透過放射を考慮した伝熱計算モデルの開発と布間仕切りの最適化」です。一見建築学の専門領域に見えますが、この研究は都市全体の持続可能な環境整備という、都市工学が目指すべき重要課題に直結しています。

現在、日本全体のエネルギー消費の約3割を建築分野が占めており、特に既存建物の低効率な冷暖房設備は、都市レベルでのエネルギー消費削減における重要課題となっています。近年のGX（Green Transformation）実現においても、この問題の解決は急務とされています。

安藤君の研究は、壁放射冷暖房という既存建物への導入コストが比較的低い冷暖房システムに着目し、その最大の課題である「間仕切りによる熱伝達の阻害」を克服することを目指しています。具体的には、吸放熱性に優れた繊維素材を間仕切りに用いることで、布間仕切りを介した熱伝達を可能にする画期的なアプローチです。さらに、繊維素材の複雑な構造で生じる「透過放射」現象を考慮した精度の高い伝熱計算モデルを開発し、より正確な温熱環境予測を実現します。

この研究により、間仕切りがある環境でも壁放射冷暖房を実用化でき、プライバシー確保が必須の病室や、災害対応で重要性が高まる緊急避難所など、都市の公共空間において省エネルギーで快適な温熱環境を提供できます。これは単なるエネルギー消費削減にとどまらず、対流冷暖房の気流によって生じる塵の飛散を抑制といった副次的效果も期待されます。安藤君は研究成果を社会課題の解決に繋げることを目指しており、その成果の社会実装と都市工学分野への貢献に期待いたします。

(文責：小島 昌一)



2024年度 理工学部と菱実会との意見交換会

2024（R 6）年11月13日に、ホテルニューオータニ佐賀に於いて、佐賀大学理工学部と菱実会との意見交換会が開催されました。意見交換会に先立ち、菱実会発足25周年記念事業として、島菱実会会长から佐藤理工学部長へ記念品の目録贈呈が行われました。

はじめに主催者を代表して島会長の挨拶があり、菱実会発足25周年記念誌への原稿執筆のお礼や菱実会発足の経緯などの説明、現在の菱実会の活動状況の報告がありました。引き続き佐藤理工学部長のご挨拶では、菱実会発足25周年へのお祝いの言葉と、日ごろからの理工学部に対する支援や25周年記念の記念品贈呈のお礼をいただきました。応接セットがかなり古くなっていたので、記念品の贈呈には感謝されていました。理工学部の状況として、理工学部の入学定員が480名から510名になったことやデータサイエンスコースができたこと、コスマティックサイエンス学環が創設されるなどのお話しがありました。その後、菱実会側の出席者9名の自己紹介、及び理工学部側の出席者8名の自己紹介と各担当部門等の現状報告などがありました。

休憩をはさみ、宮良部門長の乾杯の音頭で自由歓談の意見交換会・懇親会が始まりました。懇親会の途中で、穂屋下事務局長より理工学部同窓会長賞規程の変更、菱実会賞の3つの枠（学生枠、大学院生枠、社会人枠）の説明などがありました。また高津理事より、自転車用電動空気入れの設置に向けた学長や大学事務の方との話し合いの状況についての説明がありました。最後に、山口副会長の挨拶と一本締めで意見交換会を締めくくり、出席者全員で写真撮影を行い、閉会しました。終了時間をかなりオーバーするとしても有意義な意見交換会でした。

（文責：中山 輝樹）



トピックス3

卒業証明書取得のオンライン申請スタート

佐賀大学（兒玉浩明学長）は、令和7年（2025年）7月1日から、卒業証明書や成績証明書の申請・取得方法を大きく刷新します。これまで郵送で数日を要していた証明書等の発行が、オンライン申請とコンビニ交付により、最短“即日”で完了するようになります。

これまでの手続きでは、申請書の記入、郵送、発行、返送といった複数のステップを経る必要があり、急ぎの場面ではご不便をおかけしていたと思います。新システムでは、インターネットから申請を行い、全国のコンビニエンスストアで証明書をその場で印刷・受け取りできるようになります。時間も手間も大幅に削減され、証明書発行プロセスのスマート化が実現できました。発行システムは、就職活動や資格申請手続きなど、証明書が必要となる場面で役立ちます。たとえば「明日までに証明書が必要！」という状況でも、オンラインで申請すれば、最寄りのコンビニで即座に受け取ることが可能です。なお、システムを利用するためには発行手数料800円に加えて、コンビニ発行の場合は印刷代（60円/1枚）が必要となります。

申請には本人確認のための手続き（ユーザー登録）が事前に必要です。本人確認のユーザー登録が完了していれば、最短即日での発行も可能となります。また、ユーザー登録後にマイナンバーカード情報を証明書発行システムと紐づけておくと、マイナンバーカードをスマホにかざせばID、パスワードの入力なしに印刷できるようになります。新システムは、「いつでも・どこでも・すぐに」証明書が手に入るという利便性を卒業生にご提供いたします。佐賀大学は、卒業生の皆さまが社会のさまざまな場面でスムーズに活躍できるよう、今後もサービスのデジタル化と利便性向上に取り組んでまいります。新しい証明書発行制度、ぜひご活用ください。

詳細については、Web上で「佐賀大学卒業証明書発行」と検索して下さい。

*参考URL：

<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sotugyo.html>
(経営企画課 園田 泰正)



現行の証明書交付手続き



証明書交付 オンライン手続きのイメージ図



特集

私たち がんばっています

vol.11

AIと私：研究から社会実装へ

株式会社佐賀電算センター

新名 玄（電電・H17入）



現在、佐賀電算センターでAIの研究開発に従事しています。佐賀大学構内のサテライトオフィスに勤務し、大学の研究室のような開放的な環境で、AI技術の開発と実用化に日々取り組んでいます。これまで、AIチャットボット、車両ナンバー認識、時系列データ解析など多様なプロジェクトに携わってきましたが、特に印象深かったのは「文字同定AI」の開発で、人名などに使用される標準文字にはない外字を識別するために、微細な文字の違いを見極める独自の工夫が求められ、開発には多くの試行錯誤が必要でした。最終的に実用化に至り、特許も取得。この技術力を武器に、全国の地方公共団体の標準準拠システム整備を支援するデジタル庁事業にも参画できました。

私の原点は大学（2005年入学）での経験にあります。当時、それほど注目されていなかったAIは、実用化にはまだ多くの研究の余地があり、可能性を感じさせる分野でした。卒業研究を通じてさらに関心を深め、大学院・博士課程へ進学。博士号取得後は他大学の研究員を経て、AIスタートアップ企業ではR&Dセンター長を務め、実用的なAIの研究開発に取り組みました。世間のAIへの期待が急速に高まる中、数多くの実務経験やメディア出演の機会にも恵まれました。まさにAIブームの真っただ中でしたが、技術的な困難や「精度」といった曖昧な概念の扱いなど、社会に受け入れられるには多くの課題もありました。通常のソフトウェア開発とは異なり、“完璧なシステム”とはならないAIに戸惑う企業も多く、さらにデジタル化以前の環境整備に時間がかかる現実に、日本のAI導入の遅れを強く実感しました。中でも行政や公共分野への活用は特に難しく感じていました。そうした中、公共事業でいくつかの全国シェアのサービスを開拓する現在の企業に可能性を感じて転職。今後も、公共性の高いAI実装と研究開発を通じて、社会のDX推進に貢献したいと考えています。

A Journey of Growth: From Saga University to NICT

Doctor course, Graduate School of Science and Engineering, completed in September 2024

Dr. Htet Wai Htun (Myanmar)



I am honored to share the story of my academic and personal growth at Saga University—a journey that began in 2019 as a master's student under the Togami Myanmar Scholarship Program. It was there that I discovered my passion for research, under the expert guidance of Professor Dr. Ichihiko Toyoda and Associate Professors Dr. Takayuki Tanaka and Dr. Eisuke Nishiyama. Their mentorship not only fueled my curiosity but also inspired me to pursue a doctoral degree. Supported by the prestigious MEXT Scholarship, I entered the Ph.D. program in 2021, actively contributing to conference presentations and journal publications as a representative of Saga University.

These experiences presented many challenges requiring resilience, adaptability, and effective time management. My time at Saga University became more than an academic pursuit; it evolved into a personal testament to perseverance, culminating in the fulfillment of a long-held goal. The lessons I learned along the way, particularly the importance of focus and adaptability, shaped both my research and personal development, equipping me to approach future challenges with confidence.

These formative years instilled a powerful sense of determination, which guided me to seek a position aligned with both my ability and aspirations. The National Institute of Information and Communications Technology (NICT), renowned for its innovative research initiatives and commitment to diversity, became my top and only choice. I was excited to embark on this new chapter at NICT, confident that it would empower me to realize my professional ambitions.

Upon completing my doctorate, I officially joined NICT on December 1st, 2024, as a fixed-term researcher—a pivotal milestone in my transition to a professional research environment. I am currently engaged in both the Terahertz and Electromagnetic Compatibility (EMC) Laboratories, working under the guidance of my research manager and senior colleagues. Together, we foster a collaborative and forward-thinking research culture. Our team is advancing wireless communication technologies for Beyond 5G, with a particular focus on the millimeter-wave and terahertz frequency bands, emphasizing calibration and measurement precision. I am proud to support NICT's mission and remain committed to delivering impactful research that advances the frontiers of wireless technologies. Looking ahead, I hope to serve as a bridge between NICT and Saga University—two institutions that have profoundly shaped my identity as a researcher. The academic foundation I built at Saga University is still a guiding force in my career, shaping my vision, inspiring my efforts, and reminding me of the values that define true research excellence as well as personal growth.

大町町地域おこし協力隊（防災担当）にチャレンジ

田中 稲穂（化学・S61入）



今般ご縁があって今年5月より佐賀県大町町役場にて地域おこし協力隊（防災担当）として着任しました。さて、大町町は佐賀県のほぼ中央部に位置し東西、南北ともわずか約4km強で町役場を中心にはほぼ菱形をなしており、総面積11.5km²と県内で最も面積が小さい町です。ちなみに東京都千代田区（総面積11.7km²）と同等です。地勢は町の中央部を東西に国道34号とJR佐世保線が並走し、これを境に北部はゆるやかな南面傾斜をなした山間、山ろく地帯で、一方南部は平坦地の水田が広がっています。

大町町の直近の災害として令和元年の佐賀豪雨災害と令和3年8月豪雨災害がありました。新聞やニュースなどでご存知の方も多いと思います。上記に記しました南部の町境には六角川があり有明海へ流れています。干満差が6mにもおよび特に満潮時に内水氾濫が起こりやすい地形となっております。その為、六角川水域の自治体や県及び国とともに内水対策に取り組んでいます。

なお、大町町は災害支援拠点ソレイユに併せて防災訓練施設やペットと避難できる日本レスキュー協会佐賀支部大町拠点MORE WAN(モアワン)があります。また最新技術の災害ドローンでの実証試験にも災害支援協力者と取り組んでいます(下記QRコードを参照)。

今は色々な災害がどこで起きてもおかしくない状況です。先ずは自分の身は自分で守る（自助）を基本とし、近隣の人々がお互い協力し合いながら助けあう（共助）が重要となってきています。そこで国が各地域で自主防災組織活動を取り組むよう指示しています。地域コミュニティ活動の一環として日頃から地域での防災訓練を行う必要があります。私の仕事（任務）は町民の皆様とコミュニケーションを取って溶け込み、行政関係者や災害支援団体との協力や今までの経験を活かして町民皆様の防災意識の更なる向上を目指すことです。

現在、大町町には私以外に任務が異なる地域おこし協力隊が5名います。また以前、地域おこし協力隊として活動し今はこの町で活躍されている方などとそれぞれの任務を通して大町町とともに地域を楽しく盛り上げていけるよう取り組んで参ります。大町町と関わりのある同窓生の皆様にも本町へ足を運んで頂き是非ともご支援頂けましたら幸いです。



STEPsリーダーとしての国際交流と地域貢献

理工学研究科 知能情報工学コース

出雲 正浩（情報・R3入）



2023年度、理工学部学生交流活動組織「STEPs」のメンバーとしてオーストラリアのサザンクイーンズランド大学（USQ）を訪問しました。ロボット工学や流体力学、モーター遠隔制御研究室など、USQ内の多彩な理工系研究室で最先端の研究・実験環境を見学し、技術と知識の深さに大きな刺激を受けました。

2024年度はリーダーとしてSTEPsを指揮。海外研修の成果をさらに高めるため、英語でのグループディスカッション能力が不可欠であると痛感し、実践的なテーマ選定を行いました。「持続可能なエネルギー技術」や「スマート農業の未来」などの議題を設定し、メンバーとともに英語で集中的な討論を重ね、発信力と議論構築力の向上に取り組みました。続く海外研修ではインドネシアのハサヌ丁寧大学を訪問し、農作物収穫の自動化を実現するロボットや、その情報通信を支えるサーバーシステムなどの研究成果に触れました。異文化環境で技術を見聞し、国際共同研究の意義を実感するとともに、研究者の熱意に刺激を受けました。

演習的な活動だけでなく、地域貢献として株式会社コンロッドのプロジェクト「Gift the connrod」にも参画。私はデザインを担当し、製品コンセプトやロゴを提案、デザインコンテストに応募しました。この経験を通して、企業と連携しながらデザインを通じて社会に貢献する喜びと課題解決の過程を学びました。これらの活動を通じて培ったリーダーシップ、国際的視野、コミュニケーション能力を今後の研究・社会活動に生かし、理工学分野でのさらなる挑戦を続けていきます。

今後は学術学会での発表や論文執筆にも積極的に取り組み、国内外の研究者との交流を深めることで、持続可能な社会実装に貢献することを目指しています。また、アントレプレナーシップを養い、技術とビジネスを融合させた新たなソリューション創出にも挑戦していきたいと考えています。

菱実会役員の自己紹介

Vol. 7

菱実会の発展を願う

木村情報技術株式会社
吉村 真（機能・H12入）



2024年から菱実会の理事を務めることになりました吉村真と申します。微力ながら、同窓会の発展と会員の皆さまの交流促進に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

現在、私は佐賀市に本社を構える木村情報技術株式会社の取締役 経営戦略担当として勤務をしております。機能物質化学科を卒業し、研究者の道には進まず、営業職を選択し、事業企画や組織開発に携わってきました。弊社は今年、創立20周年を迎え、製薬企業やエンタープライズ企業、全国の中小企業に対し、ライブ配信ソリューションや人工知能を活用したソリューションの開発、提供を行っております。ありがたいことに、これまで多くの理工学部卒業生がエンジニアとして入社し、それぞれの分野で力を発揮しています。母校で得た専門的な知識と論理的思考力が、今も現場の最前線で活かされており、改めて理工学部での学びの価値を実感する日々です。

佐賀大学には優秀な学生、エンジニアが多くいますが、卒業後に佐賀に残る人材はまだまだ少ないと感じています。佐賀には素晴らしい企業は多くあり、若者たちが活躍できる場もあります。私のように理工学部を卒業しても、研究者やエンジニアではない道で輝ける世界もあります。私は菱実会を通じ理工学部の卒業生同士のネットワークがより活性化し、世代や分野を超えた交流が生まれるような取り組みが継続して生まれていくことが重要だと思っております。在学生へのキャリア支援や母校への貢献といった観点からも、実りある活動を模索してまいります。

同窓生の皆さまとも、さまざまな形でつながり、学び合える機会を創出していければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

知的好奇心と行動力で、世界へ挑戦

理工学研究科知能情報工学コース2年・Tecテック代表
福嶋 通明（知能・R2入）



私は現在、佐賀大学大学院 理工学研究科の修士2年生として、中山研究室に所属し研究活動に取り組んでいます。中山研究室は深層学習の応用研究に強みがあり、学生が自らの興味に基づいて研究テーマを設定し、主体的に研究を進めるスタイルが特徴です。テーマを与えられるのではなく、「自分は何を解決したいのか」という視点から研究を構築するため、自律的な思考力が培われます。また、各学生に専用の作業スペースと複数のモニターが用意されるなど、設備面も充実しており、集中して研究に取り組める環境が整っています。

私は現在、スマートフォンカメラと深層学習を用いて、眼球運動を解析することでパーキンソン病のスクリーニングを行う手法の研究を進めています。高価な医療機器に頼らず、誰もが手にできる機材で実現できる技術により、医療資源が限られる地域への貢献を目指しています。

研究活動と並行して、ドローン空撮や動画制作にも取り組んできました。2年前に立ち上げた個人事業「Tecテック」では、地域企業のPR映像制作などを手がけており、理工学部同窓会25周年記念行事では、現在のキャンパスを空撮した記念映像を制作しました。日常では、最新の電気製品に触れながら、その設計思想や性能に学ぶことを楽しんでおり、世界の技術動向を体感する貴重な機会となっています。

こうした経験を通じて培ってきた「先端技術を活用し、価値を創造していく力」を社会で活かしたいと考え、卒業後は総合電機メーカーへの就職を決意しました。今後は、ものづくりを通じて人々の暮らしを支える仕事に取り組んでまいります。

将来的には、技術者としての専門性に加え、俯瞰的な視点で課題を捉え、価値ある解決策を提供できる人材を目指しています。そうした成長を支える土台として、同窓会の持つネットワークや世代を超えたつながりの力に、あらためて大きな可能性を感じています。

菱実会を通じて、学年や専門を超えた交流がさらに活発になり、未来の理工系人材にとっての支えとなる場として発展していくことを心より願っております。私自身も、その一助となれるよう尽力してまいります。

菱実会総会・同窓生ネットワーク活動報告会

2024年度の菱実会定例総会（総会・菱実会ネットワーク活動報告会）は、2024年9月7日（土）、佐嘉神社記念館に於いて下記の通り開催しました。

総会は、開会／会長挨拶／議長選出／議案(1)佐賀大学理工学部同窓会菱実会会則改正／議案(2)第13期菱実会役員／議案(3)2023年度事業報告／議案(4)2023年度決算報告、決算監査報告／議案(5)2024年度事業計画／議案(6)2024年度予算案／その他／閉会と続きました。

島公二武新会長の挨拶は、2024年度より菱実会が佐賀大学同窓会から離脱に至った経緯について説明がありました。佐賀大学同窓会からの離脱に伴い、菱実会会則が大幅に改正されました（菱実会ホームページの会則と菱実会役員名簿は、4月1日にさかのぼって掲載されております）。議案(1)～(6)は全て承認可決されました。

総会の後、菱実会定例総会の1つの新しいイベントとして同窓生ネットワーク活動報告会が開催されました。同窓生ネットワーク活動報告会は菱実会クラス代表会議の名称を変更した報告会です。5名の学生（学部生1名、大学院生4名）の方々に大学における活動や研究等を発表していただきました。この試みは、これから菱実会総会の有り方を改善し、単なる同窓生だけの同窓会にとどまらず、在学生、卒業生、理工学部教職員、そして企業を繋ぐこともできますので、大学の将来作りにも貢献できると確信しております。なお、座長は森山裕鷹氏と高津汰耀氏に務めていただきました。

発表テーマ、発表者は次の通りです。詳しくは菱実会Webサイト（<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/news/202409141799/>）をご覧下さい。

- (1)Tecテックの立ち上げとドローン映像制作の挑戦：福嶋 通明 氏
- (2)白飯の重量の推定精度を向上させる画像処理アルゴリズムの開発：古賀 創臣 氏
- (3)地元で国際貢献できるフェアトレード：林 虎太郎 氏
- (4)GPT-4を用いて物理の問題文の映像を自動生成するシステムの開発：岸本 蒼唯 氏
- (5)研究内容の事業化：小嶋 恒 氏

お知らせ

2025年度の定例総会は、2025年9月6日（土）の午後に予定しています。多数ご参加下さい。詳しくは、菱実会Webサイトの新着情報をご覧下さい。

第13期菱実会役員（2024年4月～2026年3月）

（2025年5月12日）

役職担当	担当	氏名	学科・入学	勤務先
会長		島 公二武	機械S46入	自営業
副会長	庶務	樋口 幸弘	土木S49入	松尾建設株式会社
理事	庶務	古川 裕紀	生機H04入	佐賀県議会議員
副会長	会報	小玉 純士	建設S57入	ダン技術設計株式会社
理事	会報	田中 高行	電子S57入	佐賀大学
理事	会報	測上貴由樹	都市H12入	佐賀大学
理事	会報	高津 汰耀	情報R02入	佐賀大学院（修士）・（同）sunapp社長
副会長	組織強化	山口 智啓	生機S48入	
理事	組織強化	大島 史洋	機械H03入	佐賀大学
理事	組織強化	山城 佑太	機械H28入	佐賀大学院（博後）・（株）山城機巧社長
副会長	情報管理	山中 輝樹	情報H02入	株式会社 佐賀電算センター
理事	情報管理	池上 康之	生機S57入	佐賀大学
理事	情報管理	森山 裕鷹	知能H27入	佐賀大学院（博後）・（株）SA-GA社長
理事	情報管理	福嶋 通明	知能R02入	佐賀大学院・Tecテック代表
副会長	学生支援	田中 稲穂	化学S61入	大町町地域おこし協力隊
理事	学生支援	吉村 真	機物H12入	木村情報技術株式会社
理事	学生支援	猿澤 雄一	知能H19入	株式会社オプティム
事務局長 常務理事		穂屋下 茂	機械S45入	
監事		中島 道夫	化学S43入	
監事		椿 忠彦	物理S48入	龍谷中学校・高等学校
名誉会長		秋永 正幸	機械S41入	



総会の様子



報告会の様子

2024年度理工学部キャリアデザインセミナー

2024年度の理工学部キャリアデザインセミナーは6つの部門（旧学科）で実施していただきました。開催された教室での対面式セミナーには菱実会役員も視察参加させていただきました。講師を務めていただきました同窓生の皆様、またセミナーの手配や世話ををしていただきました先生方にこの場を借りて御礼申しあげます。

部 門	実 施 日	講 師	担当教員
数理・情報 (数理)	2025年1月9日(木) 理工学部大学院棟201	白谷 嶺 氏 (数理科学科・2013年編入学) 三菱UFJ信託銀行株式会社	半田 賢司 先生
数理・情報 (情報)	2024年12月5日(木) 理工学部大学院棟301	中村 圭助 氏 (知能情報システム学科・2016年入学) SmartHR株式会社	岡崎 泰久 先生
化 学	2024年10月30日(水) 理工学部大学院棟401	岩永 弦樹 氏 (機能物質化学科・2005年入学) 福岡クロス工業株式会社	川喜田 英孝 先生
		梶原 孝文 氏 (機能物質化学科・2012年入学) JNC株式会社	
物 理 学	2024年11月11日(月) 理工学部大学院棟101	松本 祐樹 氏 (物理科学科・2009年入学) 日本オラクル株式会社	船久保 公一 先生
		岡元 沙蓉子 氏 (物理科学科・2017年入学) 株式会社オーブンストリーム	
機械工学	2024年11月6日(水) 理工学部大学院棟301	岡 佑亮 氏 (機械システム工学科・2008年入学) 株式会社西島製作所	木上 洋一 先生
		佐藤 祥二 氏 (機械システム工学科・2010年入学) 株式会社三井三池製作所	
電気電子工学	2024年12月4日(水) 理工学部大学院棟401	新名 玄 氏 (電気電子工学科・2005年入学) 株式会社佐賀電算センター	杉 剛直 先生
		後藤 和彦 氏 (電気電子工学科・2005年入学) 東京都立産業技術高等専門学校	
都市工学	2025年2月17日(月) 理工学部6号館 都市大講義室	西村 裕次 氏 (都市工学科・2002年入学) 太陽工業	帯屋 洋之 先生
		富永 幸希 氏 (理工学科都市基盤工学コース・2020年入学) 株式会社名村造船所	

2024年度「建設プロジェクト演習」実施報告

「建設プロジェクト演習」は産学官連携のPBL（課題解決型学習）講義で、2010年から都市工学部門で実施しています。2024年度は、2025年2月18日（火）から3月4日（火）まで全12回の講義を実施しました。

本講義は、担当教員とOB支援員の指導の下、学生は各自がテーマを設定して調査研究を行い、その結果をまとめながら、プレゼンテーション能力や資料作成スキル向上等を高める課題解決型学習となっております。学習指導に欠かせないOB支援員は、菱実会の支援によって賄われております。具体的には次のステップで実施されます。

- (1)学生にはガイダンスを通じて講義概要が説明され、自己目標の設定や効果的な学習方法について指導が行われます。
- (2)講義の前半で、現場の実務者の講演（3件）により産学官連携の重要性や現場での実態について学びます。
- (3)各講演後に学生は講演内容からターゲットワードを3つ抽出し、知識を深掘りします。
- (4)KJ法を用いてブレインストーミングを行い、得られた情報を整理します。社会基盤に関する課題やその背景、対策などについて議論し、それらをグルーピングして課題を整理します。その後、OB支援員や教員の指導を受けて、調査研究テーマを設定します。
- (5)研究が進む中、学生は中間報告を行い、進捗状況を発表します。OB支援員や教員から調査研究の方向性に対するフィードバックが行われ、必要に応じて軌道修正します。追加で調査すべき内容についての指導もあります。
- (6)最後に、学生は調査研究の成果を10分間で発表します。発表後には質疑応答が行われ、OB支援員や教員、学生からの質問に答える形で議論が行われます。
- (7)学生は講義終了後に自己評価を行います。

最も重要な学びとして、プレゼン資料の作成法や情報収集の重要性が挙げられ、卒業研究や就職活動において活かすことが期待されます。

（文責：三島 悠一郎）



支部会・地区会の報告

熊本支部会

2024（R6）年6月1日（土）17：00より、ホテルメルパルク熊本にて熊本支部総会が開催されました。総会参加者は、支部会員42名及び来賓（本部役員7名と学長）の合計50名で、支部参加者の内訳は、文理学部卒1名、農学部卒13名、経済学部卒10名、理工学部卒10名、教育学部卒5名、医学部卒3名でした。菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）からは、本部役員として、島会長、穂屋下事務局長（前会長）、山口副会長が参加しました。参加者は満遍なくどの学部からも、また年配から若手まで参加者がありました。

総会は、奈須理事（理工・S58年卒）の司会進行で、会友報告、総会、記念写真撮影、懇親会の順で遂行されました。会友報告では、理工学部H17年卒本山貴裕氏から「DXの取り組み～CAE解析に関して～」という演題で、勤務先の平田機工の事業概要や自分が担当しているDXやCAEについて講演がありました。

総会では、高口支部長（経済・S53卒）の挨拶の後、来賓の紹介、来賓の挨拶があり、事業報告、会計報告、役員改選は事務局の提案どおりに承認されました。懇親会では、テーブルごとに参加者全員の自己紹介もあり、学生時代の思い出、近況などの報告がありました。最後に島菱実会会长の寮歌「南に遠く」巻頭言、参加者全員で学生歌「楠の葉」を齊唱などで盛り上がり、立場副会長（農学・S51卒）の万歳三唱で閉会となりました。

熊本支部の役員（会長＝支部長、副会長、事務局）の選出は、2年ごとに5学部で輪番制にして、10年先まで決まっており、うまく引継ぎができているようでした。また、今年も農学部同窓生の嶋田薰（農学・H2卒）氏から農園で栽培した胡蝶蘭十数鉢の差し入れがあり、総会の間は会場に飾り、最後に、テーブルごとにジャンケン大会の勝者に賞品としてプレゼントされました。

（文責：山口 智啓）

神埼地区会

佐賀大学同窓会神埼地区総会が2024（R6）年9月28日、割烹「菊水」に於いて開催されました。現在、2024年度の地区会が開催されているのは残念ながら神埼地区のみです。参加者は、神埼地区会員21名及び来賓7名。

神埼地区会員の内訳は、有朋会38名、芸術地域デザイン1名、楠葉同窓会9名、農学部同窓会28名、菱実会18名、医学部同窓会2名、教育学部と農学部がしっかりしている地区と感じました。2015（H27）年8月にスタートし10年目の開催で、菱実会同様、若手への会員参加拡大が課題のことです。

総会前に、佐賀県で開催される「SAGA2024 国民スポーツ大会 全国障害者スポーツ大会」に伴う「2014日本のうたごえ祭典in佐賀」のPR「宝の海よ」の美しいコラスで幕を開けました。総会では、古賀季夫会長挨拶、来賓紹介、事業報告がありました。講話は、山田直行佐賀大学同窓会会长による「ふるさとスケッチ神埼編」と題し佐賀新聞に記載された風景画の中から神埼地区の美しい風景と災害や取水に関する主要箇所のご紹介がありました。

各本部役員からの挨拶の中で、江口達也楠葉同窓会会长から、経費をかけず気軽に来て帰れるようなイベントとして11月9日「同窓会フェス」開催のご紹介があり、和やかで盛り上がりのある交流と続き、最後に島公二武菱実会会长と古川裕紀理事の音頭による巻頭言で盛会な締めくくりとなりました。



参加者全員で集合写真



集合写真



神埼地区総会の様子

（文責：牧瀬 稔子）

佐大会懇親会

佐大会懇親会が、2024（R6）年9月14日（土）17：00から、グランデはがくれに於いて開催されました。本会は今年で35回を迎え、佐賀大学及び佐賀大学大学院卒業で、県立学校の校長・副校長・教頭・統括事務長・事務長、またその退職者の親睦を図る会であります。

出席者は、退職者13名、現職15名、本部から2名（島公二武菱実会会长、山口智啓副会长）の合計30名でした。中西美香教頭（唐津西高）の司会で、坂本明弘幹事の開会の言葉、物故者の黙祷、会則の確認がありました。物故者は把握しているだけでも25名と知り、この会が長く続いていることを実感しました。会員は、理数系卒業者が多く、工業系は、だんだん少なくなっているとのことでした。また、今年管理職になった6名は全員出席されていましたが、いずれも工業系以外の方でした。

古賀信孝副会长の乾杯で懇親会が始まり、しばらく懇談してから、新規会員6名の自己紹介や近況報告があり、最後に、島会長の音頭で「巻頭言 南に遠く」「佐賀大学学生歌 楠の葉」を合唱し、大いに盛り上りました。また、理工学部同窓生には、菱実会発足25周年記念誌の原稿依頼をお願いしました。

（文責：山口 智啓）



集合写真



巻頭言に盛り上がる

大分県支部会（豊後はがくれの会）

2025（R7）年2月22日（土）17：00より、佐賀大学同窓会大分県支部「豊後はがくれの会」の総会が開催されました。会場は、大分駅の南口近くのホルトホール大分の4階会議室（総会）と3階ホルトガーデン（懇親会）で開催されました。参加者は、支部会員参加者12名及び来賓5名（本部役員）の合計17名でした。支部会員参加者の内訳は、文理学部卒1名、経済学部卒3名、理工学部卒1名、農学部卒7名で、大半が農学部卒でした。

総会は、神取禎久事務局長（農・S62卒）の司会で進められました。はじめに清末義信支部長（農・S59卒）の挨拶がありました。若い人の参加が少ないので、若手の参加を増やすことが大きな課題であるが、今回二人の若手が参加してくれたことは大きな収穫であるとのことでした。山田直行佐賀大学同窓会長が来賓を代表して挨拶し、続いて来賓の紹介がありました。議事では、令和5年度の経過報告、コロナ後の行事再開、次年度の総会開催日について議論されました。次年度の役員改選は提案どおりに可決され、支部長は佐藤吉昭氏（農・H元卒）に決定しました。また、総会資料で欠席者からのメッセージや逝去者2名の紹介がなされました。最後に、若い順番に支部会員参加者全員の自己紹介や近況報告がありました。

総会後、場所を3階ホルトガーデンに移して懇親会が行われました。懇親会は谷本親史氏（文理・S37卒）の乾杯音頭で始まりました。会話が弾む中、会の終盤には余興としてジャンケンゲームがあり、会場は大変盛り上りました。ちなみに優勝者は、次年度支部長に決定した佐藤吉昭氏でした。ジャンケンゲームのあと、菱実会Webサイトに公開している「ドローンによる空から眺めた本庄キャンパスの空撮動画」についてその旨を伝えました。

最後に、若手の橋本泰樹氏（農・H26卒）と阿南壮一郎氏（農・H31卒）の万歳三唱で会を閉じました。会場の外の階段で記念写真の撮影を終えて、支部会を解散しました。

（文責：穂屋下 茂）



ジャンケン大会のひとこま



参加者全員の写真

2024年度佐賀大学ホームカミングデー

2024年10月26日（土）に開催されました第13回佐賀大学ホームカミングデーに参加しましたので報告致します。佐賀大学ホームカミングデーは、同窓生と大学の役員や教職員の交流を促進し、大学のさらなる発展に寄与することを目的として毎年開催されています。今年は、卒業生、名誉教授、同窓会役員及び本学の役職員・在校生等、約70名の参加があったとのことでした。

先ず児玉学長より佐賀大学の現状と2030年に向けた将来ビジョンの報告の中で令和8年度に熊本大学との共同教育課程（教育学部）開設やコスメティックサイエンス学環の開設を進めているお話をありました。引き続き山田直行佐賀大学同窓会会长の挨拶がありました。

その後佐賀大学発ベンチャー企業の代表者の講演会や海外留学の体験談の発表がありました。理工学部関係では合同会社sunapp（スナップ）高津汰耀代表社員（理工学研究科博士前期課程1年）と株式会社NEXS（ネクシス）梶原 薩代表取締役（工学系研究科博士後期課程2023年修了）のお二人が登壇されました。続いて佐賀大学校友会の事業報告の後、支援事業により大韓民国に留学した在校生による体験報告がありました。

式の前には「佐賀大学図書館月間2024」の展示会、「幕末の佐賀と学問－明治維新への道－」を閲覧するキャンパスツアー、式の後の懇談会では講話者をはじめ佐賀大学役員やOBの先生方とも情報交換をさせて頂き和やかな雰囲気で終了しました。同窓生の皆様、来年は是非とも一緒に参加しましょうとお声掛けさせて頂きます。

第14回佐賀大学ホームカミングデーは、2025年10月下旬～11月上旬に開催予定とのことです。佐賀大学校友会Webサイトの「お知らせ」をご覧下さい（佐賀大学ページTOP>附属・研究施設等>大学関連組織>校友会>お知らせ）。詳細な案内が届き次第、菱実会Webサイトの新着情報でもお知らせします。
（文責：田中 稲穂）



第13回佐賀大学ホームカミングデーの様子を動画で紹介

(<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/shibuchikukai/202411011932/>)

トピックス4

ネーミングライツパートナー募集

佐賀大学では、民間等資金を活用した教育研究環境の向上を図るため、2024年4月よりネーミングライツパートナーの募集を開始しました。

●ネーミングライツって？

佐賀大学の施設に愛称を付与する命名権のことで、学内施設の魅力向上を図り、大学及び地域の活性化に貢献するものです。本庄と鍋島の2キャンパスに建物単位で10施設、部屋単位で35施設の中に166室、外部空間は12施設の募集を行っています。

●ネーミングライツの3つのメリット

✓ メリット1 法人・企業の知名度アップ

学内施設は在学生や教職員はもちろん、地域の方にも多く利用いただいている。この集客効果として、パートナーとなる法人さまや企業さまの知名度アップが期待できます。

✓ メリット2 教育研究環境へ貢献

ネーミングライツパートナー契約金は、佐賀大学の教育研究環境の向上に活用されます。法人さまや企業さまの利益が「知の拠点」推進の一助となります。

✓ メリット3 リクルーティングに有効

佐賀大学には九州を中心に、様々な地域から学生が集まっています。学内施設名を通して、在学生に法人さまや企業さまの存在をアピール。身近な存在がリクルーティングにつながることが期待されます。

●これまで契約頂いたパートナー様

11社に及ぶパートナー様より13施設（内、8施設が理工学部関連の建物）の契約を頂いています。佐賀大学の学生に自社について広く知ってもらいたい！、自社へ就職して欲しい！といったリクルート活動のPRツールとして、是非ご検討ください。

※詳細は佐賀大学ホームページをご覧ください。
<https://www.saga-u.ac.jp/corp/namingrights/>



理工学部大学院棟1階 自習室
(株)戸上電機製作所「トガクラ」



かさざぎホール
(株)ミゾタ「Mizota kitchen」



理工学部1号館南棟2階コミュニティスペース
(株)ワイビーエム「YBM SPACE」

菱実会の動き

2024
4月 → 2025
3月

2024. 4. 1 *菱実会は佐賀大学同窓会から離脱
2 2024 (R6) 年度佐賀大学入学式
(学部1,396名、大学院328名)
2 *第20回理工学部長賞表彰式(菱実会より副賞)
／受賞者：新3年生13名、新4年生12名)
5 ○第3回離脱に伴う佐賀大学同窓会と菱実会との話し合い
18 ○佐賀大学同窓会との事務局移設についての話し合い
18 *理工学部長との会談
25 *菱実会事務局は小会議室に移設
30 *第1回菱実会会長・副会長会議
5. 8 *第1回菱実会役員会・2023年度菱実会会計監査
22 *佐賀大学学長との会談
6. 1 ○佐賀大学同窓会熊本支部総会・懇親会
19 *第2回菱実会役員会
7. 1 *菱実会会報「菱の実 第26号」発行
1 *第2回菱実会会長・副会長会議
17 *第2回実行委員会
24 ○佐賀大学同窓会への事務室経費等の負担についての話し合い
8. 7 *第3回実行委員会
22 *第4回実行委員会
9. 7 *2024年度菱実会定例総会・菱実会発足25周年記念祝賀会
7 *第4回理工学部同窓会長賞表彰式(受賞者:12名)
12 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
14 ○佐大会懇親会
19 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
28 ○佐賀大学同窓会神埼地区会・懇親会
10. 10 *実行委員会反省会
17 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
佐賀大学学園祭～20日まで
19 *第3回会長・副会長会議
21 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
佐賀大学ホームカミングデー
26 *第3回菱実会役員会
28 *第3回菱実会役員会

- (*印は菱実会（理工学部同窓会）○印は佐賀大学同窓会無印は、佐賀大学／理工学部)
- 30 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
30 *理工学部キャリアデザインセミナー
化学部門／講師：2名卒業生
11. 6 *理工学部キャリアデザインセミナー
機械工学部門／講師：2名卒業生
8 *第4回菱実会役員会（メール会議）
11 *理工学部キャリアデザインセミナー
物理学部門／講師：2名卒業生
13 *理工学部と菱実会との意見交換会（理工学部へ記念品目録贈呈）
16 ○第32回佐賀県青春祭歌祭
18 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
アグリ創生教育研究センター収穫感謝祭
26 *菱実会発足25周年記念誌編集会議
28 12. 4 *理工学部キャリアデザインセミナー
電気電子工学部門／講師：2名卒業生
5 *理工学部キャリアデザインセミナー
数理・情報部門（情報）／講師：1名卒業生
2025. 1. 9 *理工学部キャリアデザインセミナー
数理・情報部門（数理）／講師：1名卒業生
14 *第5回菱実会役員会・新年会
27 *理工学部への記念品寄贈に対する感謝状受領
2. 8 ○佐賀大学同窓会唐津地区総会・懇親会
17 *理工学部キャリアデザインセミナー
都市工学部門／講師：2名卒業生
18 建設プロジェクト演習（2/18-3/4）
アドバイザー：3名卒業生
22 ○佐賀大学同窓会大分支部総会（豊後はがくれの会）
3. 1 *菱実会発足25周年記念誌発行
12 *佐賀大学同窓会と菱実会との共用負担金についての話し合い
25 2024 (R6) 年度佐賀大学学位記授与式
(学部1,271名、大学院294名)
25 ○佐賀大学同窓会長賞表彰状授与（受賞者6名）
26 *第6回菱実会役員会
*菱実会運営デジタル化会議：30回開催

お 知 ら せ

● 「菱実会賞」申請の勧め

菱実会では、①菱実会賞、②理工学部同窓会長賞、③佐賀大学同窓会長賞、④理工学部長賞、⑤菱実会・理工学部広報賞の5つの表彰制度があります。表彰制度の②～⑤はよく利用されていますが、菱実会賞の応募は少ないのが現状です。あなたのモチベーションを高めるために申請を試みてみませんか。

菱実会賞申請の受付期間は毎年10月1日～翌年6月30日。申請書等は原則e-mail添付で送付。審査結果発表は7月30日前後。表彰式は菱実会定例総会時（毎年9月第1週目土曜日開催予定）。

菱実会賞候補者の基準は、佐賀大学理工学部に入学した学生及び卒業生で、かつ同窓会会員を納入している正会員で、社会活動、課外活動、学術研究活動等において成果や評価が顕著であることで、3つの部門（学部生部門、大学院生部門、及び社会人部門）から毎年数件ずつ採択するようになっております。重複申請等の制限もありますので、詳しくは菱実会Webサイトの「菱実会賞」から、菱実会賞表彰規程と菱実会賞推薦書をダウンロードしてご覧下さい。

菱実会の表彰制度の種類 (<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/hyosho/>)



● 菱実会発足25周年記念誌の見本と申し込み

菱実会発足25周年記念誌はB5版で、約650頁になる豪華版に仕上っております。特にグラビア写真集「写真で綴る佐賀大学キャンパスとその周辺の変遷」は圧巻となっております。記念誌をご希望の方は菱実会Webサイトの「お問い合わせ」からお申込み下さい。郵便番号と送り先も必ず書いて下さい。折り返し「記念誌払込取扱票」をお送り致します。なお、冊数に限りがございますので、無くなり次第締め切らせていただきます。（左側のQRコードから記念誌の見本をご覗いただけます）。

お問い合わせ先

菱実会事務局 は佐賀大学菱の実会館内にあります

TEL/FAX : 0952-23-7131

e-mail : ryoujitsukai@sudream.sakura.ne.jp



*菱実会HP (<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/>) は佐賀大学同窓会HPとは連動しておりません。
お問い合わせは、菱実会HPのお問い合わせフォーム（右のQRコード）をご利用下さい。